

# 第 1 部

## 教育委員会点検・評価

【参考】「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 1 点検・評価対象事業一覧

事業コード	事業名	担当課
143	八ヶ岳野外体験教室の充実事業	学校教育企画課
339	中学校給食施設整備事業	学校給食課
422	総合市民図書館市民運営事業	総合市民図書館
426	子ども読書活動推進事業	総合市民図書館
516	アートのスペースの整備・運営事業	文化芸術課
528	(仮称)ふじさわ宿交流館の整備・運営事業	郷土歴史課
621	子どもの体力向上対策事業	スポーツ推進課 教育指導課
825	学校防犯対策強化事業 (子ども110番・安全マップ)	教育指導課 防犯交通安全課

## 2 平成27年度 教育委員会点検・評価報告書

事業コード	事業名	担当部			教育部	
143	八ヶ岳野外体験教室の充実事業	担当課			学校教育企画課	
事業目的		変更(ある場合)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・八ヶ岳周辺の大自然の中で各学校が行う教育活動の充実を図ること、児童生徒の個性や自主性・創造性を伸ばし、心豊かに育てる。</li> <li>・市民等の野外体験施設としての利用に供することで、市民が自然環境に触れられる場を提供する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容について、計画的に施設の修繕を進める内容に文言を修正した。(H28)</li> </ul>				
事業内容						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育施設として、八ヶ岳周辺の大自然の中で各学校が行う自主的・創造的な教育活動を展開するとともに、市民等の野外体験施設として活用する。</li> <li>・中長期修繕計画に基づいて施設の計画的な修繕に取り組んでいく。</li> </ul>						
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	
	実施					
予算額(千円)	227,260	226,871				
決算額(千円)	225,313					
執行率(%)	99.1					
年次ごとの取組計画(年次ごとの目標値)に対するH27年度末の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動を行うことにより心豊かな児童生徒の育成が図れた。</li> <li>・市民が自然環境に触れられる場を提供できた。</li> </ul>		H27年度の総合評価	評価	次年度	
				B	継続	
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)		評価の理由				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者と連携しながら、学校利用、市民等の利用を進めることができた。</li> <li>・藤沢市立学校55校の学校利用があり、児童生徒の個性や自主性・創造性を伸ばすことができた。中学校7校においては冬季利用で冬の大自然を体験し、厳しい自然の中で藤沢では得られない体験をした。</li> <li>・指定管理者の自主事業「子どもだけのわいわいキャンプ」では藤沢市の子どもたちだけでなく、茅ヶ崎市・寒川町に在住・在学の小・中学生も一緒に自然体験や仲間とのふれ合いを行うことができた。</li> <li>・施設管理の面では、本館、宿泊棟の暖房等経年劣化に伴う修繕を行うことができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者と連携しながら、学校利用や市民等の利用を進め、平成27年度の目標は達成できたと考えられる。</li> </ul>				
		今後の方向				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の体験活動施設としての重要性は以前にも増して高まってきている。</li> <li>・藤沢市内の学校利用日以外については、広域利用も含め、他市町の団体の利用に向け積極的に情報提供していく。</li> </ul>				
		H28年度事業計画				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者と連携しながら、学校利用の充実をはかるとともに市民等の利用の促進に努める。</li> <li>・藤沢市立学校の学校利用に関しては、全体説明会や事前打ち合わせを綿密に行い、各校の自主活動のニーズにあった体験活動のサポートを行う。</li> <li>・広域利用に関して、積極的に情報提供していく。</li> <li>・指定管理者と連携し一般利用者の拡大へ向けた具体的な取組を行う。</li> <li>・施設の修繕計画をもとに、施設の長寿命化、安全確保のための修繕を行っていく。</li> </ul>				
課題・問題点		平成28年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤沢市の児童生徒の体験活動施設としてだけでなく、近隣他市町の児童生徒も団体利用できる施設として認知してもらうために、関係者への周知が必要。</li> <li>・一般市民利用者の拡大へ向けた取組が必要。</li> <li>・施設開設から20年以上が経過しているため、施設全体の経年劣化への対応も課題となっている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大自然の中での活動を通して、自立する子どもの育成、豊かな心と健康な身体を育む教育が展開できるよう、各学校のねらいやニーズを的確につかみ、それにあった活動が展開できるような対応を行っていく。</li> <li>・利用者の拡大を図るため、学校を通じた保護者へのPRや、近隣市町の教育委員会や学校へのPR、インターネット予約の早期実現などについて、指定管理者との連携を密にしながら取組を充実させていく。</li> <li>・施設の修繕については、中長期修繕計画に基づいて、計画的に進めていく。</li> </ul>				

事業コード	事業名	中学校給食施設整備事業				担当部	教育部	
339						担当課	学校給食課	
事業目的						変更(ある場合)		
成長期にある生徒の健康保持増進及び食育の推進を図る。						* 事業終了年度を今回策定した実施計画に合わせ平成31年度に変更		
事業内容								
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭からの弁当持参とデリバリー方式の給食の選択制を実施する。</li> <li>栄養バランスの摂れた食事を提供し、望ましい食習慣を養う。</li> </ul>								
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度			
	給食施設の整備							
	試行3校 (計5校)	実施4校 (計9校)	実施3校 (計12校)	実施7校(計19校)				
予算額(千円)	16,337	37,652						
決算額(千円)	16,026							
執行率(%)	98.1							
年次ごとの取組計画(年次ごとの目標値)に対するH27年度末の成果	中学校給食実施校 5校		H27年度の総合評価		評価	次年度		
					B	継続		
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)				評価の理由				
<ul style="list-style-type: none"> <li>第一中学校、明治中学校及び六会中学校において給食の試行を開始</li> <li>＜主な検証ポイント＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>日課表を変更せずに15分の昼食時間で実施可能か</li> <li>給食の配膳場所の確保が可能か</li> <li>調理後2時間以内の喫食が可能かどうか</li> </ul> </li> <li>(「学校給食衛生管理基準」の規定)</li> <li>＜検証方法＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>開始後に生徒、保護者、職員へのアンケートを実施</li> <li>検証ポイントについては問題がないことを確認</li> </ul> </li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>計画どおり事業を実施した。</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>検証結果に基づき平成28年度以降の実施計画を策定、市議会2月定例会に報告</li> </ul>				今後の方向 実施計画に基づき平成28年度から順次実施校を拡大し、平成31年度には全19校において給食を実施する。				
課題・問題点				H28年度事業計画				
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備(配膳場所の確保)についての課題等はないものの、調理業者の契約期間、契約方法については、安定的な事業継続を図るためには検討の必要がある。</li> <li>喫食率向上策については、検討の必要がある。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>御所見中学校、高倉中学校、大庭中学校及び大清水中学校で中学校給食を実施</li> </ul>				
				平成28年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について				
				<ul style="list-style-type: none"> <li>施策の柱である「安全・安心で快適な学校施設の整備」として、夏季休業中に今年度の対象校である4校の配膳室整備を行い、後期間中に給食を開始する。</li> <li>給食を開始することにより、小学校と同様に栄養教諭が、給食を「生きた教材」として活用し、食育を推進する。</li> </ul>				

事業コード	事業名	総合市民図書館市民運営事業			担当部	生涯学習部
422					担当課	総合市民図書館
事業目的				変更(ある場合)		
これまで図書館業務に携わってきた図書館業務員を中心として組織されたNPO法人に図書館運営を業務委託することにより、効率的・効果的な図書館運営と市民との協働による地域に密着した図書館サービスの充実を図る。						
事業内容						
これまで図書館業務に携わってきた図書館業務員を中心として組織されたNPO法人に辻堂市民図書館と湘南大庭市民図書館の運営業務を委託する。総合市民図書館は、施設管理、予算執行、サービス業務の支援等を行うとともに、業務委託された図書館の運営状況を検証する。						
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	▶					
	貸出件数 390万件/年	391万件/年	392万件/年	393万件/年	394万件/年	
予算額(千円)	137,756	138,652				
決算額(千円)	136,566					
執行率(%)	99.1					
年次ごとの取組計画(年次ごとの目標値)に対するH27年度末の成果	貸出件数 378万件/年		H27年度の 総合評価	評価	次年度	
				B	継続	
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)			評価の理由			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人に辻堂市民図書館・湘南大庭市民図書館の図書館運営業務を業務委託した。資料貸出・レファレンス等のサービス業務及びおはなし会等の事業を実施し、順調な運営が行われた。</li> <li>・総合市民図書館は、業務委託された図書館の運営状況を検証するとともに、施設管理、予算執行、サービス業務の支援等を行った。</li> <li>・総合市民図書館管理職、NPO法人管理職及び事務局によるNPO連絡会議を開催し、情報交換を行うとともに指示・監督に努めた。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・辻堂市民図書館・湘南大庭市民図書館の2館とも円滑に運営され、NPO法人からの相談等に対する総合市民図書館からの支援や、NPO法人と総合市民図書館との連絡会議による情報共有等により、従来の図書館サービスの水準を維持できている。</li> </ul>			
			今後の方向			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合市民図書館は、NPO法人に運営業務を委託した辻堂市民図書館及び湘南大庭市民図書館に対して、今後とも施設管理、予算執行、サービス業務の支援等を引き続き行う。</li> </ul>			
			H28年度事業計画			
			NPO法人による辻堂市民図書館と湘南大庭市民図書館の運営状況及び総合市民図書館の支援機能についての検証を継続する。			
課題・問題点			平成28年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・辻堂市民図書館及び湘南大庭市民図書館が引き続き質の高い図書館サービスを維持できるよう、2館の運営状況及び総合市民図書館の支援機能を検証していく。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・辻堂及び湘南大庭市民図書館が市民運営としての自主性を生かすとともに、地域に密着した図書館サービスの提供や各種事業の企画、実施が円滑にできるよう、総合市民図書館は引き続き支援を行うものである。</li> <li>・年次目標値としている貸出件数については、電子媒体の普及等に伴い減少傾向が見られることから、多様化する市民ニーズを把握しながら、適切な目標に修正し、今後も4館で目標の達成に努めていくものである。</li> </ul>			

事業コード	事業名	子ども読書活動推進事業			担当部	生涯学習部
426					担当課	総合市民図書館
事業目的		変更(ある場合)				
子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けることができるよう、子どもの読書環境を整備し、読書機会の充実を図る。						
事業内容						
「藤沢市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境の整備と読書機会の充実を図る。						
・ブックスタート事業など子どもの発達段階にあわせた事業等の充実						
・団体貸出など学校及び子どもに関わる施設・団体等との連携事業の充実						
・子どもと読書に関わるボランティアの育成						
・学校図書館の運営等への支援						
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	
	学校及び子どもに関わる施設団体等との連携事業の実施					
	団体貸出回数 750回	800回	850回	900回	950回	
	子どもの発達段階にあわせた事業等の実施					
	ブックスタート事業の実施 ボランティアの育成					
交流会・研修会等の実施						
予算額(千円)	5,542	5,208				
決算額(千円)	5,235					
執行率(%)	94.5					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値) に対するH27年度末 の成果	学校及び子どもに関わる施設団体への団体貸出回数(953回) ・ブックスタート事業の実施(48回) ・ボランティア交流会(5回)、研修会(3回)の実施			H27年度の 総合評価	評価 A	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)			評価の理由			
<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふじさわ子ども読書プラン2020 第3次藤沢市子ども読書活動推進計画」を策定した。</li> <li>ブックスタート事業を48回実施し、幼児と保護者に絵本の読み聞かせを行い、子育て支援情報・図書館案内・絵本リスト等の入ったブックスタート・バックを3,574人に手渡し、絵本を介した心ふれあう時間を持つきっかけとなるよう努めた。</li> <li>母子健康手帳交付時・「こんにちは赤ちゃん事業」・3歳6か月児健診時で、保護者に啓発リーフレットを配付し、読書に関心を持つ機会の拡充に努めた。</li> <li>学校及び子どもに関わる施設・団体等に団体貸出を958回実施し、資料の充実に努めた。</li> <li>リサイクルブックフェアを2回実施し、学校及び幼稚園・保育園等に対して資料提供を行い、各施設等の資料の充実を図ることができた。</li> <li>図書館・図書室おはなし会ボランティア連絡会を4回実施し、ボランティア同士の意見交流や情報共有に努めた。</li> <li>ブックスタートボランティア交流会を1回実施し、情報共有に努め、活動の参考とすることができた。</li> <li>図書館・図書室おはなし会ボランティア研修会を2回、ブックスタートボランティア研修会を1回実施し、今後の活動の充実のために参考とすることができた。</li> <li>学校図書館専門員連絡会に参加し、学校図書館との連携推進を図った。</li> <li>藤沢市子ども読書活動推進会議を開催し、事業報告及び評価と、進捗状況の確認を行い、今後の取組の参考とした。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>計画どおり事業を行うことができた。</li> <li>団体貸出等、学校及び子どもに関わる施設団体等との連携事業について周知を図り、多く利用された。また、ブックスタート事業前後のフォローアップ事業として、新たに母子健康手帳交付時に啓発リーフレットの配付がはじまった。</li> </ul>			
			今後の方向			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>学校及び子どもに関わる施設団体等への団体貸出については、市内全体の増加数が見込み以上に著しく多かったため、目標値を大きく超えることとなった。一方で館によっては貸出回数の減少も見られることから、H28年度の目標値については据え置きとし、経過を観察するとともに、事業の更なる周知に努める。</li> <li>ボランティア交流会及び研修会等の実施については、日程や研修内容の充実について検討する。</li> <li>ブックスタート事業前後のフォローアップ事業については、関係各課と調整しつつ引き続き実施する。</li> </ul>			
			H28年度事業計画			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>学校及び子どもに関わる施設・団体等に対する資料の団体貸出・配本等、連携事業の実施</li> <li>学校図書館専門員連絡会への参加等学校図書館運営に関わる支援の実施</li> <li>ブックスタート事業及びフォローアップ事業の実施</li> <li>各種ボランティア交流会及び研修会の実施</li> <li>藤沢市子ども読書活動推進会議の開催</li> <li>「ふじさわ子ども読書プラン2020 第3次藤沢市子ども読書活動推進計画」に基づき、関係部署等と連携を図りながら、計画の推進に向けて取り組む。</li> </ul>			
課題・問題点			平成28年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について			
<ul style="list-style-type: none"> <li>各種ボランティア交流会及び研修会等の充実を図る。</li> <li>学校及び子どもに関わる施設・団体等との連携事業の周知方法等について検討の必要がある。</li> <li>「ふじさわ子ども読書プラン2020 第3次藤沢市子ども読書活動推進計画」の進ちょく状況等の検証方法について検討する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが一人ひとりの発達段階にあったさまざまな読書活動を行うとともに、社会全体が読書活動に興味を持ち、子どもの読書活動を支える環境の整備をめざし、計画の周知や事業の実施に取り組むものである。</li> <li>年次目標値としている団体貸出回数については、平成27年度に目標を大きく上回ったことから、今後もさまざまな施設等に利用されるよう周知・啓発に努めていくものである。</li> </ul>			

事業コード	事業名	担当部				生涯学習部
516	アートのスペースの整備・運営事業	担当課				文化芸術課
事業目的		変更(ある場合)				
若手芸術家等の創作活動の支援、美術鑑賞の機会の提供、美術作品の展示・発表、及び美術学習の場の提供等を主な目的に、本市の美術振興の拠点施設として整備し、事業を運営する。						
事業内容						
美術の振興を図る新たな機能を持つ施設として、アートのスペースを整備し、事業を運営する。 ・レジデンスルーム(アトリエ)、展示ルーム等の整備・開設 ・若手芸術家等の創作活動及び展示・発表等の支援等						
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度 施設の運用	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	
	開設・供用開始 入場者及び利用者数 15,000人	供用 30,000人	31,000人	32,000人	33,000人	
予算額(千円)	64,360	68,098				
決算額(千円)	60,182					
執行率(%)	93.5					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)に対するH27年度末の成果	年間来館・来場者数約 17,500人 ・来館者数5,550人 ・神台公園会場観覧者約12,000人	H27年度の 総合評価		評価 B	次年度 継続	
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)		評価の理由				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートのスペース開館直前シンポジウムの開催 2015/8/30 <ul style="list-style-type: none"> <li>*講演会:美術館は何をはじめたのか 講師:神奈川県立近代美術館長 水沢 勉</li> <li>*パネルディスカッション:アートが導く!「文化都市・藤沢」の新たな展開に向けて パネリスト:神奈川芸術文化財団 学芸員中野仁詞 他2人、司会:美術評論家 岡部あおみ</li> <li>*参加者114人</li> </ul> </li> <li>・開館記念特別展覧会「From now on!!」の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1期:10/3-11/3 参加作家:4人</li> <li>第2期:11/7-12/6 参加作家:3人</li> <li>第3期:12/12-1/17 参加作家:2人</li> <li>*来館者数 3,277人</li> </ul> </li> <li>・企画展 「まちをとらえる - 記憶のドキュメント」の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>1/23-2/28 参加作家:4人</li> <li>*来館者数1,173人</li> </ul> </li> <li>・企画展 「みつげること/またみつげること」の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>3/5-4/10 参加作家:4人</li> <li>*3月末までの来館者数 986人 神台公園会場観覧者数 約12,000人</li> <li>*会期を通じての来館者数 1,389人 神台公園会場観覧者数 約17,000人</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな美術を中心とする文化芸術を発信する施設として供用開始し、様々なメディアを利用し周知を行ったが一般市民の知名度はまだ低いと考えられる。神台公園会場の観覧者数を合わせると当初の目標を上回る人数となり、若手芸術家を支援するという基本方針に沿って、当初の予定通りの事業がすべて実施することができたため。</li> <li>今後の方向 <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き若手芸術家等の創作活動の支援、美術鑑賞の機会の提供、美術作品の展示・発表、及び美術学習の場の提供等を行うため、様々な事業を実施していく。</li> </ul> </li> </ul>				
課題・問題点		H28年度事業計画				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートのスペースがある湘南C-XC2街区は、特別景観形成地区であり、広告看板物等の掲出について、きめ細やかな要件があるため、案内誘導サイン等の設置について工夫が必要となる。</li> <li>・施設の周知や事業推進を図るため、県内の美術系大学、市内の高校、中学の美術担当部門を訪問し、施設・事業のPRを行うとともに、他の公共的な施設や辻堂地域の商店街、及び民間施設と連携をしていく必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募による公開制作展の開催:多彩な創作活動に携わるアーティストから制作したい作品と展示についてのプランを全国から広く募集し開催する。</li> <li>・藤沢(湘南)ゆかりの作家展:藤沢を中心として湘南地域で活動する若手作家を紹介する展覧会を3回開催する。</li> <li>・レジデンスルーム、展示ルームの一般への貸し出し。</li> <li>・展覧会に関連したイベントの開催及び、子どもや各世代で楽しめるワークショップ、美術講座を定期的で開催する。</li> <li>・藤沢ゆかりの著名な作家や姉妹都市等と連携した企画展を開催する。</li> </ul>				
		平成28年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について				
		施設の知名度を高めるため、藤沢ゆかりの著名な作家や姉妹都市等と連携した企画展など、集客力のある企画を開催するとともに、こうした企画展を含めた施設の情報を、市広報、新聞、専門雑誌、情報誌をはじめ、ホームページやSNS等様々なメディアを利用し発信していく。同時に、県内の美術系大学や市内の高校、中学の美術担当部門を訪問し、施設・事業のPRを積極的に行っていく。また、施設として初めて全国公募展を開催し、その審査員に著名なキュレーター、アーティスト、美術関係者を起用し、ハイレベルな展覧会とすることによって、アートの存在感を高めることにつなげていく。				



事業コード 528	事業名 (仮称)ふじさわ宿交流館の整備・運営事業	担当部 担当課	生涯学習部 郷土歴史課		
事業目的 旧東海道藤沢宿に(仮称)ふじさわ宿交流館を整備し、他の様々な取組と併せ地域の活性化に繋がる活用を図る。		変更(ある場合)			
事業内容 旧東海道藤沢宿に地域の歴史や文化を学ぶ、休憩や交流の場としても活用できる施設として(仮称)ふじさわ宿交流館を整備する。 ・藤沢宿の歴史・文化・なりわいの紹介 ・伝統芸能の発表の場の提供 ・地域の活性化のための事業実施					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度 ふじさわ宿交流館の整備・運営	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
	新築工事	開館 利用者数 25,000人	26,000人	26,000人	26,000人
予算額(千円)	214,457	31,049			
決算額(千円)	154,860				
執行率(%)	72.2				
年次ごとの取組計画(年次ごとの目標値)に対するH27年度末の成果	新築工事について、年度末までに竣工できず繰り越した。	H27年度の総合評価		評価 C	次年度 継続
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)		評価の理由			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月議会に施設の設置条例案を上程し議決された。</li> <li>・指定管理者の選定を行い、12月議会に指定議案を上程し議決された。</li> <li>・その後施設の管理、運営について指定管理者と詳細を詰め、3月に基本協定を締結した。</li> <li>・施設の建築工事については、8月10日に建築・電気・設備に分けて発注した。</li> <li>・運営、活用についての地域・関係団体等との意見交換会を2回実施した。</li> <li>・藤沢地区郷土づくり推進会議、藤沢東部・西部自治連合会でそれぞれ交流館建設の進捗状況、運営・活用方法について説明した。</li> <li>・4月の開館を目指し、施設の運営に必要な備品等の調達を行うとともに、郷土資料展示室に展示する資料の整理や展示物の準備を行った。</li> <li>・開館記念式典や開館記念イベントの準備を進めた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新築工事が完了しなかったため。</li> </ul>			
		今後の方向			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年4月1日から藤沢市観光協会が指定管理者として運営準備を行い、4月29日に開館予定。展示業務は市が行い、各種イベント、PRは主に指定管理者が行う。また、地域の市民活動団体等と連携し、地域ににぎわいの創出を目指す。</li> </ul>			
		H28年度事業計画			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月29日開館</li> <li>・運営協議会の開催</li> <li>・伝統芸能等各種イベントの実施</li> <li>・藤沢宿のPR</li> <li>・市民団体との協働事業の実施</li> </ul>			
課題・問題点		平成28年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流館をいかに市内外にPRするか、そして集客を地域の活性化とにぎわいの創出に繋げていくかを、指定管理者、地域住民、商業関係者等と連携しながら検討・実践していく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>交流館の来館者を増やし、旧東海道藤沢宿の歴史や文化をより多くの方に伝えられるように、ジオラマやコンピュータグラフィックの活用など歴史資料の展示に工夫するとともに、近年盛んなウオーキングイベント等で交流館を利用していただくなど、民間との連携も進めていく。</li> </ul>			

事業コード	事業名	子どもの体力向上対策事業			担当部	教育部・生涯学習部	
621					担当課	教育指導課・スポーツ推進課	
事業目的					変更(ある場合)		
小中学生の体力向上のための教育プログラムを研究・実践する。							
事業内容							
(教育指導課) ・市立小学校5年生と中学校2年生を対象に「体力・運動能力テスト」を実施し、その結果を基に、子どもの体力を分析して、子どもの体力向上のための方策を検討する。							
(スポーツ推進課) ・新体力テスト実施に向けた測定員の養成と派遣。							
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度		
	体力・運動能力テスト(54校)						
	実施						
予算額(千円)	5,857	5,799					
決算額(千円)	5,857						
執行率(%)	100.0						
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)に対するH27年度末の成果	体力・運動能力テストの実施校数54校			H27年度の 総合評価	評価	次年度	
				B		継続	
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)				評価の理由			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の体力向上に向けた啓発を図ることができた。</li> <li>・希望校には測定員を派遣し、市内54校で実施することができた。</li> <li>・市内小学校32校から測定員の派遣依頼があり、4月20日から6月29日の期間で実施した。</li> <li>・平成25年度より、全校で8種目を測定している。</li> <li>・測定員意見交換会については、11月15日に行い、次年度に向けた検討を行った。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内54校で体力・運動能力テストを実施。</li> <li>・学校との日程調整を含め、事業目的に沿った事業展開を実施できた。</li> </ul>			
				今後の方向			
				全種目、全校を対象として、継続実行する。 ・国や県の動向を踏まえながら検討していく。			
				H28年度事業計画			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内54校で実施</li> <li>・希望校には体力テスト測定員を派遣</li> <li>・体力テスト測定員登録台帳の管理</li> <li>・市内各学校の派遣要請受付</li> <li>・測定員への謝金・交通費等支払業務</li> </ul>			
課題・問題点				平成28年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度から、全校を対象に全種目を測定することとなったため、派遣人員を増やす必要が生じ、測定員の確保及び日程調整等に苦慮している。</li> <li>・測定員を派遣するスケジュールの関係で、実施時期に差が出てしまう。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が自分の体力・運動能力を把握し、運動習慣や生活習慣の見直しが図れるようはたらきかけを行う。</li> <li>・教員に対して児童生徒の興味・関心を高める体育の授業づくりや指導方法の工夫について指導助言を行うとともに、講習会などの情報を周知し、啓発活動を行う。</li> <li>・家庭に対して児童生徒の調査結果を通知したり、啓発資料を配付するなどはたらきかけを行う。</li> <li>・地域における体育・スポーツにかかるイベント等の情報を発信し、児童生徒が運動に親しむ機会の提供に努める。</li> <li>・運動施設や用具の充実を図り、運動環境を整える。</li> <li>・教育委員会ホームページ上に本市の調査結果を公開し、市民への周知を図る。</li> <li>・平成27年度の測定結果を踏まえ、小・中学校の体育授業において体力向上の取組を実践する。</li> <li>・測定員養成講習会を継続し、派遣体制を強化するとともに、派遣についてより効率的、合理的な方法を検討する。</li> </ul>			

事業コード 825(832)	事業名 学校防犯対策強化事業 (こども110番・安全マップ)	担当部 市民自治部・教育部	担当課 防犯交通安全課・教育指導課		
事業目的 子どもの安全安心を守るための環境整備を推進する		変更(ある場合)			
事業内容 ・子どもが犯罪などから助けを求めてきた際に、一時的な緊急避難場所として、また警察などへの通報場所として、昼間在宅されているお宅やお店にこども110番の看板の掲示を依頼する。 ・地域安全マップ指導員を養成するための講習会を定期的に行い、学校における安全マップ作りの推進を図る。 ・学校における安全マップ作りを支援し、児童・生徒が自ら危険な場所を読み取る力を養い、危機回避能力を向上させる。					
年次ごとの取組計画 (年次ごとの目標値)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
	地域安全マップ指導員養成講座の開催				
	実施 学校における地域安全マップ作りの推進				
	実施校数 2校(延べ15校)	2校(延べ17校)	2校(延べ19校)	2校(延べ21校)	2校(延べ23校)
予算額(千円)	922	889			
決算額(千円)	789				
執行率(%)	85.6				
年次ごとの取組計画(年次ごとの目標値)に対するH27年度末の成果	地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者会)を開催した。 学校における地域安全マップ作りを2校行った。	H27年度の 総合評価	評価 B	次年度 継続	
H27年度 進捗状況(今年度の効果・成果)	評価の理由				
こども110番事業について ・こども110番 全体掲示件数5,043件 新規掲示件数131件 昼間在宅されているお宅やお店に、子どもが犯罪などから助けを求めてきた際に一時的な緊急避難場所、警察などへの通報場所として掲示いただいている。  地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者会)について ・今年度は小・中学校教職員を対象に地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者会)を実施した。学校における地域安全マップ作りの推進を図った。 学校における地域安全マップ作りについて ・今年度は大鋸小学校、鶴沼小学校で行った。サポートスタッフと一緒に子どもたちが生活圏を歩き、『地域安全マップ』を自ら作製した。子どもたちの「危機回避能力」を向上させる支援をした。	取組計画どおりの執行を行ったため。				
	今後の方向				
	引き続き ・こども110番の看板の掲示を依頼する。 ・地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者会)の開催する。 ・学校における地域安全マップ作りを2校ずつ行う。				
	H28年度事業計画				
	・こども110番の看板の掲示を依頼する。 ・地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者会)の開催。 ・学校における地域安全マップ作りを2校行う。				
課題・問題点	平成28年度の目標達成に向けた今後の対応や施策の柱を踏まえた取組について ・子ども110番については市民センター等と協力し、掲示協力いただけるお店や個人に掲示を依頼する。 ・夏季休業中に教職員対象の地域安全マップ指導員養成講座(学校安全担当者会)を開催し、受講者は各校における推進役を担う。 ・学校における地域安全マップ作りを2校で行う。その際にはサポートスタッフとして地域安全マップ指導員養成講座を受講した地域の方々の協力を仰ぐ。				

### 3 評価委員会からいただいたご意見及び今後の方向性

#### 1 4 3 八ヶ岳野外体験教室の充実事業

##### 【ご意見】

市立学校55校が普通の学校教育環境とは異なる、八ヶ岳という大自然の中で行う野外体験は、子どもたちの個性や自主性・創造性を養うには大変貴重な場であり、施策の柱や基本方針に対して大切な事業だと思う。

自然体験活動による「児童生徒の自主性や創造性の伸長」を促進するために、各学校との連携を十分に図り、年間の計画をたて、それぞれの教育目的に応じた教育活動の提供など、豊かな心と身体を育む教育に資するところがあると思う。

体験活動にともなう事前の打ち合わせや危険対策なども行われており、充実した教育活動を推進していると思う。

小学校5年生での体験、中学1年生での体験、同じ場所での体験でもそれぞれ得られるものがあり、藤沢市の子どもたちにとって大変貴重な、また思い出に残る体験となっているようだ。

八ヶ岳野外体験教室の様子を伝えたり、学校利用以外の利用者の拡大を図るための情報提供も積極的に行ったりと、引き続き多くの方に取組が伝わるよう周知をしていって欲しい。

中長期修繕計画に基づいて施設の修繕に取り組んでいただき、安心して利用できる野外体験教室事業を継続して展開していただきたい。

維持費の高さが若干気になる。一般の利用者を増やすことにより、少しでも維持費を回収する方向に動くことを期待する。幸い、稼働率に余裕があり、今後は一般市民に利用を働き掛ける方向に向かっているとのことなので、その方向に進めていくとなお良い施策になると思う。

##### 【ご意見を踏まえた今後の方向性】学校教育企画課

- ・引き続き、各学校の目的にあった有意義な学習活動が展開され、大自然の中で児童生徒の自主性や創造性の伸長が促進されるように、教育施設としての充実を図り、また、学校の要望にあった全体説明会、事前打ち合わせを実施していきたいと考えます。
- ・広報やホームページ、チラシを活用し定期的な情報発信を継続していく中で、学校、団体、一般市民への施設及び体験活動の情報提供を行っていきます。
- ・事業費については、これまでも検討を重ね、可能な限り削減に努めてきました。今後ますます指定管理者と連携する中で検討を行っていきたいと考えます。

#### 3 3 9 中学校給食施設整備事業

##### 【ご意見】

神奈川県は全国的に中学校給食普及率が低いこともあり、今後積極的に進めていくべき事業で、本当ならばもう少し早いペースで導入を進められることが理想だが、予算に限

りがある状況では仕方がないことと思う。既定の方針通りに、着実に推進していただきたい。

小学校給食と同じ基準で作られた給食であれば、安心して食べることができ、コストもおさえられ、安価で食べることができるため、実施校が増えればより多くの家庭の利用が見込まれる。

献立におけるメニューの名前の工夫、地産地消の促進、一日単位での予約システムなど、給食利用の取組を進め、栄養教諭を中心にした食育を推進することは学校の環境整備に資するところがあると思う。

家庭からのお弁当持参とデリバリー方式給食の選択制や、開始後に生徒、保護者、職員へのアンケートを実施し、検証・確認し、設備導入においても夏季期間を考慮するなど、確実な実施に向けた取組をしていると感じた。更なる充実を図っていただきたい。

配膳や喫食の時間などの検証ポイントを、試行間もないうちからアンケートを元に検証し、「量が少ない」などの意見にもすぐに対策を講じる姿勢はとてもすばらしいと感じた。お弁当文化との共存を図りつつ、アンケート結果を反映させるかたちで、児童生徒の食習慣の育成と安心した学校生活を送るための食の環境整備を推進してほしい。

昼食時間が15分しかないという状況はどうなのかと思う。教育の場ということであれば、可能ならもう少し時間があってもいいと思う。

【ご意見を踏まえた今後の方向性】学校給食課

- ・中学校給食につきましては、今後も計画的に進めていきます。安全・安心、地産地消に努めた給食の提供を引き続きおこない、生徒・教員・保護者から意見を伺いながら創意工夫を重ねていきます。食育につきましては、現在小学校を中心に進めておりますが、今後は中学校についても内容を検討しながら、生徒に食の大切さを訴えていきます。
- ・昼食時間につきましては、配膳時間の短縮を図っていきます。

#### 4 2 2 総合市民図書館市民運営事業

【ご意見】

業務委託された NPO 法人による辻堂市民図書館と湘南大庭市民図書館の運営業務は、専門性のある市民スタッフが運営することにより、施策の柱に寄与していると思う。貸出・レファレンス、おはなし会、医療機関との連携・展示などの地域の特徴を生かした図書館運営が、NPO法人による運営と市民図書館との連携によって実現されているとわかる。

今後の対応にもあげられている「多様化する市民ニーズを把握すること」と4館共通の観点からの「図書館の運営状況の検証」が連動することによって、新しい図書館運営のあり方につながると思う。

今後も、さらに質の高い図書館サービスとして、例えば、どのようなカテゴリーの本がよく借りられているかなど、市民の声を聴く方法を多様にとりながら、市民運営の自主性にもとづく独自の企画や地域に密着した企画、様々な年齢の人に応じた多様な学びの

実現と生活の豊かさに資するような取組に期待している。

NPO法人と総合市民図書館との連絡会議を実施し、情報共有ができていることにより、施策の柱や基本方針に対して大切な事業だと思う。多様化する市民のニーズ対応できるように事業の充実をお願いしたい。

貸出件数の目標と実績に大きな乖離が見られるという問題については、今後議論を進めていただきたいと思う。情報をネットから検索できる状況で、紙の書籍の貸出実績が低下する流れは、もはや避けられないものと考えられる。そのような中で、どのような考え方に基づいて数字としての目標設定を行うのかは、大変難しい問題と考える。この情報化社会の中での図書館のあり方を考える上での一つのきっかけとなってくれたらと考え、大いに期待している。

【ご意見を踏まえた今後の方向性】総合市民図書館

- ・ 辻堂市民図書館及び湘南大庭市民図書館のNPO法人による運営は、地域に密着した円滑な運営が行われてきていますが、今後も引き続き運営状況の検証を行うとともに、総合市民図書館との連携を図りながら、市民ニーズに対応した図書館サービスの充実に努めていきます。
- ・ 目標値として設定している貸出件数が、電子媒体の普及等に伴い、実績と乖離している点については、現状を十分に把握し、適切な取組目標の設定を検討していきます。

#### 4 2 6 子ども読書活動推進事業

【ご意見】

基本方針および施策の柱と照らし合わせて、本事業は目標も適切であるとともに、十分に成果が出ていると考える。

団体貸出による、外部との連携事業の充実による貸し出し回数の増加が、当初計画を上回っている点は、評価に値するものと考えます。

子どもの読書環境の整備の一環として、学校図書館、とりわけ学校図書専門員との連携が円滑に図られており、施設団体への団体貸出回数が目標を上回るなど、子どもの読書活動推進に大きく寄与していると思う。

各学校の図書室では思わず手に取りたくなるような魅力ある本の紹介やディスプレイがされていたり、多くの子どもたちが利用する子どもの家や児童館では充実した冊数の本が置かれていたり、藤沢市全体が、子どもたちの読書活動の推進に力を入れていると感じている。

今後も、施設団体への団体貸出とともに、子どもからみて本の大切さや意義を経験できるような、生活とむすびついた本とのかかわりを提供することなどにより、事業目的にもある「子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力や創造力を豊かにするための読書機会の充実」が増すことを期待している。

ブックスタート事業の実施や、学校や子どもに関わる施設・団体等への貸出を積極的に取り組むなど効果が上がっていると感じる。継続して事業の充実に取り組んでいただき

たい。

【ご意見を踏まえた今後の方向性】総合市民図書館

・今後も、「すべての子どもが本に親しむことができるまち ふじさわ」をめざし、図書館資料の団体貸出がより多くの学校及び子どもに関わる施設・団体等に利用されるよう周知及び資料の充実に努めるとともに、さまざまな施設や場において子どもの読書活動が推進されるよう、本や読書に親しむことのできる機会の充実を図るための事業等に取り組んでいきます。

5 1 6 アートスペースの整備・運営事業

【ご意見】

基本方針および施策の柱に合致した事業であり、特に、藤沢市とゆかりのある芸術家の掘り起こしをし、職員も配置されて色々なことを考えていて、生きた運営をしているという印象をもった。

若手芸術家等の創作活動の支援、美術鑑賞の機会の提供、美術作品展示・発表及び美術学習の場を提供、レジデンスルームを設けるなど、藤沢市の美術振興の発展につながる事業だと思う。

供用開始以降平成27年度中の概ね半年で、来館者数が約5,500人であり、これはなかなかの数字だと思う。

地域に根ざした文化芸術活動の推進として、藤沢（湘南）ゆかりの若手作家を支援することだけではなく、地元の声を拾いながら、多様な方法で広報活動を行うなど、市民の生活にアートを提供し根づかせようとする取組は、全体として市民と芸術のつながりを推進することに資するところがあると思う。

神台公園が引き続き会場として使えるようであれば、屋外での芸術作品の展示も続けていただきたい。活動する若手芸術家、学生等の展示機会を増やすことにより、多くの子どもたちにも興味を持ってもらえるのではないかと思う。

今後も市民が多様な形で参与することのできるアートの展開、藤沢ゆかりの芸術家の支援、各種学校との連携、藤沢市の地理や市民生活と関連の高い企画などを実施することにより、アートを通じた豊かな生活にかかわる事業が推進されることを期待している。

浮世絵館とともに、美術学習の場としての充実にも期待している。

【ご意見を踏まえた今後の方向性】文化芸術課

・藤沢を中心として湘南地域で創作活動をしている若手芸術家の支援に繋がる企画展を引き続き開催するとともに、市民に身近な場所での美術鑑賞の機会の提供、ワークショップ、美術講座等、体験的、学術的な美術学習の場を提供します。また、辻堂周辺の公共的施設を利用した作品の展示、全国公募による制作展覧会、著名な作家の展覧会等の開催及び、美術系大学・高校や小中学校等の教育機関や他市の類似施設と連携する事業展開も視野に入れながら、施設の知名度をさらに高め、本市の美術の振興を図っていきます。

## 5 2 8 (仮称)ふじさわ宿交流館の整備・運営事業

### 【ご意見】

街道筋の整備ときれいにリンクした形になっていて、エリア全体が一つのプランに基づいていると感じ、構想がよく練られているなどと思った。

「ふじさわ宿交流館」が整備・運営を開始された事により、広く藤沢宿の歴史・文化・なりわいを訪れる人に紹介したり、交流の場を提供できたりするなど、大変楽しみな事業だと思う。

市民の来館者数を増やすだけでなく、近隣の団体や商業施設と連携を取ることで、市外問わず多くの来館者が見込めると思う。

お弁当の取組や駐輪スタンドの設置など、交流館の利用を促進する取組も進められており、地域の活性化につながることを期待している。

今後も、広報活動などを広く行うことや地域住民との連携により、さまざまな年代に応じた学びの機会を提供し、交流館としての役割を果たすと同時に、伝統芸能の発表の場としての多目的ホールの利用プラン、地域住民の会議室、学習の場としての利用を含め、「歴史の継承と文化の創造」として資料の整理や展示の充実に期待している。

10代の子どもたちにとって面白そうな展示があれば、学校利用などが増えてもっと良くなるのではないかと思う。また、展示中のシミュレーションソフトも見せ方を工夫すると、さらに面白くなると思った。

藤沢宿の様子が見える浮世絵を展示した藤澤浮世絵館と連携を取りながら、訪れた人が藤沢宿をより分かりやすくイメージできるような運営をしていただきたい。

### 【ご意見を踏まえた今後の方向性】郷土歴史課

・地域住民や民間事業者等で構成された「ふじさわ宿交流館運営協議会」を中心に様々な団体等と連携しながら、藤沢宿の歴史や文化をわかりやすく伝える工夫をするなど、より多くの方に来ていただける運営を行っていきます。

## 6 2 1 子どもの体力向上対策事業

### 【ご意見】

「体力・運動能力テスト」を実施するのみならず、実施結果に基づいて教育研究会で検証している点、学校単位で分析を行うための材料を提示している点、「体力運動能力調査記録カード」や「生活習慣診断ソフト」を使用して個人に対する啓発を行っている点が良い点であると考えます。

市内小中学生を対象とした体力・運動能力テストの実施は、子どもたちが結果を元に自分の体力や運動能力を知り、体力向上を意識させる事業として、施策の柱に寄与していると思う。

今後も、児童生徒の実態に応じた体力向上プログラムを実施するために、測定の継続と同時に、測定結果を反映した学校独自の取組の提案、児童生徒一人ひとりが自分の特性



を把握し、生活習慣とつなげた体力運動能力の向上を進めることに期待しています。効果や成果の評価や課題問題点の整理について、実施したことでどのようなことが明らかになったか、学校単位で分析を行っているとしたら、どのような実例があるのかなどが明らかになっていると、さらに良い評価ができると思う。

学校、家庭、地域の方たちが今の子どもたちの現状を知ること、体力向上を目的としたスポーツイベント等を企画するきっかけになるかと思う。

測定員の確保、スケジュール調整については、より多くの方に興味を持ってもらえるよう、現在行っている広報・ホームページでの掲載のほか、各校の保護者やスポーツ団体等に測定員養成講習会のお知らせや、様子を載せたものを配布するなど、発信する方法を増やしてみたらどうかと思った。

【ご意見を踏まえた今後の方向性】スポーツ推進課・教育指導課

[スポーツ推進課]

- ・ご意見をいただいた実施結果に基づいて教育研究会で検証している点や、学校単位で分析を行うための材料を提示している点、ならびに個人に対する啓発を行っている点など、良い点については継続し、広報周知の方法など、募集の方法や周知先などを工夫しより良い事業とするために多様な視点から取り組んでいきます。
- ・藤沢市スポーツ少年団をはじめとするスポーツ関係団体・機関と連携し、体力テストの実施結果を基にした事業に取り組んでいきます。

[教育指導課]

- ・全ての小学校5年生、中学校2年生を対象とする「体力・運動能力テスト」の実施と調査結果の分析について継続実施していきます。児童生徒の体力の向上に向けては、体育の授業への助言や、家庭に対する啓発を促すはたらきかけ、各種スポーツイベント等についての情報発信等、学校・家庭・地域と連携して取り組んでいくとともに、施設の整備や用具の拡充など、運動環境の整備に努めていきます。

## 8 2 5 学校防犯対策強化事業（子ども110番・安全マップ）

【ご意見】

各学校における地域安全マップ作りは、具体的な近所の危険箇所を知ることだけでなく、犯罪機会論に基づいた「入りやすく、見えにくい場所」を意識することにより、犯罪が起こりやすい環境を自ら避けるといった危険認識を高めることができるため、施策の柱に寄与していると思う。

子どもたちが住んでいる地域の環境を学ぶことにより、防犯意識を醸成することは重要だと思う。

本事業は、地域との連携が非常に重要であり、その意味ではコミュニティづくりの側面もあると思う。

実際に学校に出向き作成される、子どもたちから見た地域安全マップ作りは大変意味のある事業だと思う。

今後も、子どもの安全を守るための環境整備を進めていただきたいと思います。合わせて、学校安全担当者会の開催が子どもの危機回避能力育成を向上させる具体的な実践のサポートまでを含めた役割を担うことや、より多くの地域住民や保護者も危険な場所を読み取る力が養われること、サポートスタッフを拡大すること、これらによって地域全体での環境整備を推進していくことを期待している。

地域安全マップ作りには、作る過程に意味があるとのことだが、実施校が毎年2校程度ということは、杓子定規に考えれば、35校のうち毎年2校程度に対してしか施策の効果が及んでいない理屈になる。

今後は、実施済みの学校が、その後この取組を実施したことをどのように活かすのかに注目して、施策を進めるなり評価をするなりしていけば、何らかの効果が出る、あるいは効果が出ていることが証明されるのではないかと思う。

---

**【ご意見を踏まえた今後の方向性】教育指導課**

- ・子どもの危機回避能力を育むための犯罪機会論に基づく地域安全マップ作りについては、学校安全担当者を対象に研修を実施し、担当者から各校において伝達する中で全ての教員に周知を図っていきます。また、サポートスタッフを活用してのモデル実施については、今後も年間2校以上を目途に実施していきます。